

# JF 日本語教育スタンダードに準拠した口頭テスト —課題遂行能力測定のためのロールプレイトスクと 評価指標の作成—

長坂 水晶・押尾 和美

## 1. JF 口頭テスト開発の背景

国際交流基金 (以下、JF) では、「課題遂行能力<sup>1</sup>」と「異文化理解能力」の養成が、国籍や民族を超えた「相互理解のための日本語」につながると考え、欧州で開発された “Common European Framework of Reference for Languages” (以下、CEFR) を参考に、2010年「JF 日本語教育スタンダード (以下、JFS)」を開発、発表した。JFS は日本語の教え方、学び方、学習成果の評価の仕方を考えるためのツールであり、コースデザイン、教材開発、試験作成に活用できるものである。

JF では口頭によるやりとり能力を測るテストを開発した。以下では、この JFS に準拠した、やりとりの課題遂行能力を測る口頭テスト (以下、JF 口頭テスト) の概要を紹介し、検討課題と今後の方向性を述べる。

## 2. JF 口頭テストの概要

JF 口頭テストは口頭でのやりとりの課題遂行能力を測ることを目的とし、課題が達成したかどうかで判定する、熟達度を測るためのテストである。JFS に準拠することにより、CEFR の 6 つの共通参照レベル (A1、A2、B1、B2、C1、C2) による判定をすることができる。

テストでは、テストと日本語学習者が対面し、1対1で約15分間のロールプレイを行なってレベル判定をする。

海外の日本語教育現場での使用を想定し、次の二点を方針にして開発をすすめてきた。①特別なテストスタートレーニングを前提とせず、簡易に使えるものにする、②目的・状況に合わせ現地仕様にしやすいものにする、である。

なお開発にあたり、JF のドイツ拠点であるケルン日本文化会館での実践 (磯村・三矢, 2011) を参考にした。

## 2.1 タスク

ロールプレイトスクは、JF が作成した JF Can-do<sup>2</sup> をもとに作成したものである。JF Can-do には CEFR に準拠したレベル (A1-B2) が付与されている。各レベルのタスクがどの程度達成したかによって A2 未達成、A2 達成、B1 達成、B2 達成の判定を行うことができる。

タスク作成は次のような手順で行った。各レベルの JF Can-do を参照し、テスト場面で実施可能な、測定しやすいものを選んだ。B2 を例にすると、口頭でのやりとりに関する 12 のカテゴリー<sup>3</sup>のうち、「インフォーマルな場面でやりとりする」「店や公共機関でやりとりする」に該当するタスクを採用した。B2 で利用した JF Can-do の一例を示す。

学校などの職場で、休憩時間などに、同僚に、今使っている教科書を変更するなどの提案をするとき、論拠を示しながら自分の考えを述べ、相手の意見に的確に対応することができる。

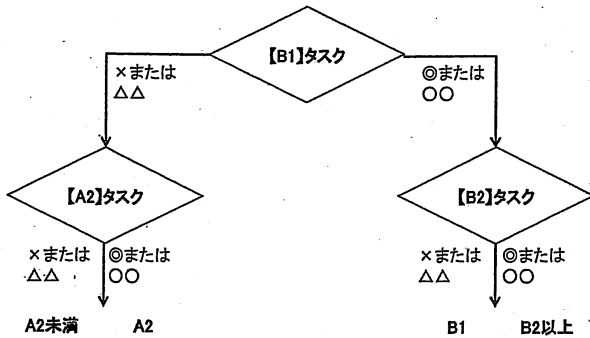
これを活用してロールプレイトスクとして作成したのが、下記のロールカードである。

あなたは日本語の先生で、昼休みに同僚とおしゃべりをしています。あなたが働いている学校では、15年間同じ教科書を使っていますが、最近、出版された新しい教科書が話題になっています。教科書を新しいものに変えた方がいいか、今までのものを使い続けた方がいいか、自分の考えをどちらかに決めて、理由を示しながら同僚と話してください。

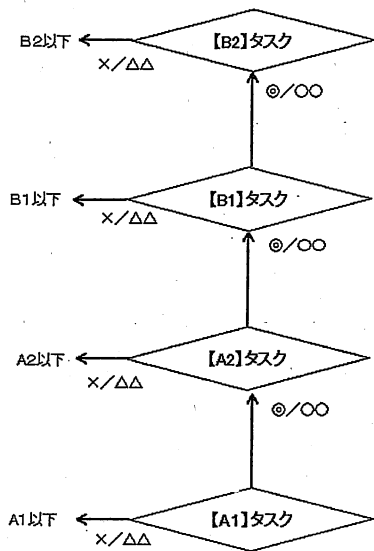
この例はノンネイティブの日本語教師に相当と思われるタスクとなっているが、例えばビジネスパーソン相手の場合であれば、「あなたは、昼休みに日本人の同僚とおしゃべりをしています。あなたの職場では、全員が、午前9時から午後6時まで働いていますが、他の会社には、始まる時間と終わる時間を自分で決められる「フレックス制」という制度があるそうです。今までどおりの働き方がいいか、フ

レックス制がいいか、自分の考えをどちらかに決めて、理由を示しながら同僚と話してください」のように、もとにした JF Can-do を参照しながら書き換えることもできる。このように、タスクは学習者や使用状況に合わせてカスタマイズが可能である。

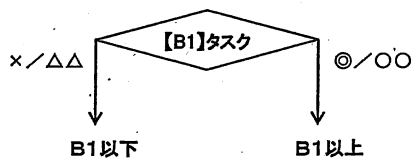
## 2.2 テストの手順と判定の方法



(1) 対象者のレベルが事前に予測できる場合



(2) 対象者のレベルが事前に予測できない場合



(3) 特定のクラスに入れるかを測りたい場合

図 1. テストの手順

判定は「タスクを十分に達成できた=◎」、「タスクを何とか達成できた=○」、「惜しかったがタスクは達成できたとは言えない=△」、「タスクは全然

達成できなかった=×」の 4 段階で行う。各タスクの達成度に応じて、複数レベルのタスクを行う。例えば、受験者の主なレベルを A2-B2 と想定した場合、判定は図 1 (1) に示した流れによって行う。

まず B1 レベルのタスクを実施して◎だった場合、B1 は達成できたと判定し、すぐ B2 レベルのタスクを実施する。×だった場合、B2 は達成できなかったと判定し、すぐ B1 レベルのタスクを実施する。B1 レベルのタスクが○か△だった場合は B1 レベルの別のタスクを一つか二つ実施する。○が二つ揃った段階で B2 レベルへ進み、△が二つ揃った段階で A2 レベルに進む。B2 と A2 でも同様に、◎や×だった場合にはすぐに判定を確定し、○や△だった場合には判定を確定するまで最高三回までタスクを行う。

受験者のレベルが事前に予測できない場合や、特定のクラスに入れるかどうかを測りたい場合は図 1 (2) (3) のように手順を変えることが可能であり、現場にあわせて利用できる。

## 2.3 テスター

このテストは、海外の現場でノンネイティブを含む教師が利用することも想定しており、集中的なテストトレーニングは前提としない。テストの前に各テスターはマニュアル<sup>4</sup>とガイドラインを読んでテストの手順、判定の方法、各タスクの内容、やりとりに必要な条件などを理解してテストに臨むことを条件とする。

## 3. ガイドライン作成のプロセス

各レベルのタスクを設定するためには、目標となるやりとりの特徴を明確にしておく必要がある。そこで、JFS が準拠している CEFR Can-do の「口頭でのやりとり全般」を参照し、どのようなやりとりができれば、そのレベルのタスクを達成したと言えるかの根拠としてテスターへのガイドラインに明示した。B2 の例を示す。

個人的に重要なできごとや経験を強調して、関連説明をし、根拠を示して自分の見方をはっきりと説明し、主張・維持できる。(CEFR Can-do B2.1「口頭でのやりとり全般」より)

ロールプレイタスクを実際に行い、タスクが達成したかどうかで判定を行うのが JF 口頭テストの特徴であるが、どの程度でタスクが達成したと言え

るのか、あるいは◎と○の違いは何か、など、実際は判定で迷いが生じることがある。そこで、テストが参照するための評価指標と、そのレベルで想定される会話例をガイドラインに掲載した。これらは、CEFR Can-do やテストを実施した音声データをもとに作成した。更に各レベルの発話の特徴を導き出すためのやり取りのポイントも挙げた。

このように、タスクとガイドラインの作成過程において常に JF Can-do と CEFR Can-do を参照した。

#### 4. 試行結果

筆者らの所属機関である日本語国際センターで試行した二回のケースを報告する。

表 1. 試行の概要

	時期	受験者	テスト
試行 1	2012 年 12 月	54 名 (32 カ国)	6 名
試行 2	2013 年 1 月	38 名 (20 カ国)	8 名

テストは日本語国際センターの専任講師であった。テストには事前にマニュアルやガイドラインを配布した。また一時間程度の説明会で、テストの概要と判定の手順を確認し、レベルイメージを共有するために想定会話の読みあわせや、テストのシミュレーションを行った。

二度の試行とも、学習者の熟達度を三つのレベルに判定することができた。試行 2 は研修（二ヶ月間）の開始時にプレースメントテストとして実施したもので、テストの判定結果と筆記試験の結果を利用してクラス分けを行うことができた。また JF 口頭テストの判定と、研修中の学習者の実際のパフォーマンスには隔たりがなかった。また、テストの最後に受験者にテストの感想を尋ねたところ「ロールプレイが楽しかった」といった肯定的なコメントが多く聞かれた。

試行の結果、検討課題となったのは以下の点である。

まず B2 でタスクによる難易差が読み取れたことである。3 章に述べたように B2 は「インフォーマルな場面でやりとりする」「店や公共機関でやりとりする」の二つのカテゴリーに属する Can-do をタスク化したが、テストを受けた全員が、「インフォーマルな場面でやりとりをする」タスクよりも「店

や公共機関でやりとりする」タスクでの判定が低くなった。このため、この二回の試行後、B2 ができるかどうかを判定するためのタスクとしては「インフォーマルな場面でやりとりする」だけを扱うこととした。

また、テストの質問の仕方が判定に影響するケースも見られたことから、各タスクでどのような質問をしたり、どのようにやりとりをする必要があるか、テストを手際よくすすめるための留意点など、テスト行動の指針として、更にガイドラインに追加すべき点が明らかになった。

またテストからは、B2 レベルの議論のタスクではテストが事前に参照して準備しておけるような論拠の例示が欲しいという要望があったため、ガイドラインに掲載するようにした。

#### 5. 公開に向けて

JF 口頭テストは、広く教育現場で、簡単かつ手軽に利用されるようになることを目標としている。それに向けてテストマニュアル、テストのフロー、サンプル音声、映像など、ツールを充実させ、パッケージとして公開することを目指している。更に、各現場にあわせてタスクをカスタマイズする例や方法も分かりやすく示し、簡単に利用できる方法でツールを提供していきたいと考えている。

#### 注

1. 「レストランで食べたいものを注文する」、「ガイドとして名所や名物などを紹介する」など、日本語を使って達成したい目標や目的を「課題（またはタスク）」と呼び、課題が達成できる能力を「課題遂行能力」と呼ぶ。
2. Can-do とは日本語でどのような課題がどれだけできるかを「～ができる」という形式で示した文のことである。JF Can-do は、JFS による実践を支援するための能力記述文データベース「みんなの「Can-do」サイト」で検索・編集が可能である。https://jfstandard.jp/cando/
3. 国際交流基金（2012b:72）参照。
4. マニュアルにはテストの手順を記載し、テストの進行に合わせたテストの発話をシナリオとして例示した。ガイドラインには、ロールプレイタスク、もとにした JF Can-do、タスク達成の手がかりとして引き出す内容、評価の指標、想定会話を記載した。

#### 参考文献

磯村一弘、三矢真由美（2011）「JF 日本語教育スタンダード「みんなの「Can-do」サイト」を用いたレベルチェ

ックテストの作成」『ヨーロッパ日本語教育』(16)  
171-175.

国際交流基金 (2012a) 『JF 日本語教育スタンダード 2010  
第二版』

国際交流基金 (2012b) 『JF 日本語教育スタンダード 2010  
第二版 利用者ガイドブック』

Council of Europe (2001) *Common European Framework of  
Reference for Languages: Learning, teaching, assessment.*  
Cambridge University Press. (吉島茂・大橋理枝(訳、編)  
(2008) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ  
共通参照枠』朝日出版社)

ながさか みあき、おしお かずみ / 国際交流基金日本語国際センター 事業化開発チーム

Miaki\_Nagasaka@jpf.go.jp, Kazumi\_Oshio@jpf.go.jp